

《8月の番組ガイド》

鳥取市行政番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷第49回鳥取しゃんしゃん祭
- ▷エンジン02鳥取
- ▷都市緑化とっとりフェア紹介
- ▷各地の夏祭り ほか



昨年の「しゃんしゃん祭」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット  
自主制作番組

番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

ブドウや、早生梨、夏野菜など収穫や、特産・砂丘らっきょうの植え付けの話題、栽培情報などを紹介します。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

小学校の新一年生の元気な学校生活の様子や、夏休みの子どもの様子を紹介します。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介します。

鳥取市インフォメーションをご活用ください

イオン鳥取北店西エスカレーター横に鳥取市インフォメーションを設置しています。行政番組や文字放送の視聴のほか、とっとり市報や各種お知らせなどもお手軽に入手できます。ぜひご利用ください。

情報をお寄せください!

いなばぴよんぴよんネット ☎0857-22-6111  
 ※放送予定は予告なく変更することがあります。  
 番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。  
<http://www.inabapyonpyon.net>



楽しく踊りを指導する森田さん

「暑い中、長時間にわたるので難しいのではないかと、いった不安の声もあった。森田さんとメンバーは、参加することに意味があると考え、自分たちのできることを精一杯やろうと、6月末から始めた踊りの練習にはほぼ全員参加している。傘を持つのも初めてというメンバーだが、みんなやる気は十分、祭りの日をとてても楽しみにしている。森田さんは「精一杯自分を出してもらいたい。踊り終え

たらきつと自信につながるはず」と強く語る。地域に出て行くことの大切さ、重要さをこの10年で感じたと、森田さん、ひきこもりがちだったメンバーもステージに立ち、堂々と自分をアピールできるようになった。いろいろ人との触れ合いが成長につながると信じている。

みなさんに感謝

「ゆいまゝる連」にはメンバーのほか、森田さんの同僚や生徒、他の障がい者グループなども加わり、およそ40人で参加する。「傘踊りには来以降も参加していきたくて」と森田さん。これからもさまざまなことにチャレンジしていく予定だ。「地域の人にこういう子たちが一生懸命頑張っているという姿を見てもらいたい。理解にもつながる」と森田さんは話す。観客からの「温かい気持ちになった」「元気をもらった」という声グループの原動力になっている。森田さんが活動の中で常に

感じているのは「すべての活動は一人ではできない」ということ。「いろいろな人たちに助けってもらい感謝の気持ちでいっぱいです」と微笑む。助け合いと絆を大切にしたい。「ゆいまゝる」は地域に溶け込み、これからも人々の心に優しいさを届け続けていく。今年の一斉傘踊りの参加連は過去最大の100連。それぞれの連の想いをのせて、今年も華やかに開催される。「ゆいまゝる連」はどんな踊りで楽しさを届けるのか。注目してほしい。



観客も一緒になってステージを盛り上げる  
ふれあい広場コンサート(6月16日、鳥取産業体育館)

鳥取の夏といえば「しゃんしゃん祭」。今年で49回目になるこの祭りのメインイベントの「ゆいまゝる」。普段は沖繩の音楽を中心に地域のイベントや、福祉施設などでコンサートを行っている。「ゆいまゝる」とは沖繩の方言で、助け合いや絆という意味。音楽を通して共に優しい気持ちを持ってほしいという願いを込めて名づけた。メンバーは市内に住む障がいのある人をはじめ、教職員、看護師などおよそ30人。リーダーの県立鳥取養護学校の教員、森田桂介さん(36)は、沖繩県出身。大学進学のため鳥取へ。鳥取大学の大学院生の時、一緒に障がい児教育を学ぶ同級生3人と沖繩音楽を「楽しむ」と、バンド「ゆいまゝる」を結成した。大学のサークル「障害児教育研究会」で、養護学校の生徒と交流があった森田さん。コンサートを観に来た生徒から自分たちもやりたいと言われ、その場で飛び入り参加させた。それをきっかけに、コ

ンサートの回を重ねる度にメンバーが増えていった。森田さんは、「音楽を通してみんなそれぞれが生き生きと自分が出せたらいいかな、そういう活動です」と笑顔で話す。およそ2カ月に1回ステージに立ち、演奏する楽器は、沖繩の三線や三板(カステネット)、パーランカー(小太鼓)をはじめ、ギター、ベース、キーボード、パーカッションなども使う。メンバーそれぞれ自分の好きな楽器を使い、思い思いに鳴らして演奏を楽しんでいる。

今年、ゆいまゝるは結成10周年を迎えた。「最初は、ステージが上がって大勢の人の前に立つと、緊張したりパニックになったりでしたが、何年も舞台に立つうちに精神的にも強くなり成長しました」と話す森田さん。さらにうれしいことは、保護者の意識の変化だという。初めのころは、子どもが頑張っているのを微笑ましく遠くから見ていると



暑い体育館の中、傘踊りの練習に励む

シリーズ  
元気です

137

みんなの心に  
響け! 鈴の音!

障がい者音楽グループ  
「ゆいまゝる」

傘踊りにチャレンジ

鳥取の夏といえば「しゃんしゃん祭」。今年で49回目になるこの祭りのメインイベントの「ゆいまゝる」。普段は沖繩の音楽を中心に地域のイベントや、福祉施設などでコンサートを行っている。

今年、ゆいまゝるは結成10周年を迎えた。「最初は、ステージが上がって大勢の人の前に立つと、緊張したりパニックになったりでしたが、何年も舞台に立つうちに精神的にも強くなり成長しました」と話す森田さん。さらにうれしいことは、保護者の意識の変化だという。初めのころは、子どもが頑張っているのを微笑ましく遠くから見ていると